

サステナブル滋賀×SDGs

——持続可能な滋賀づくりへ向けて

滋賀県知事

三日月大造

みかつき

たいぞう



なぜ、滋賀県がSDGsに
取り組むのか

滋賀県は、日本最大の湖で世界有数の古代湖である琵琶湖を健全な姿で次世代に引き継ぐため、さまざまな環境保全に取り組んでおり、『せっけん運動』をはじめ、県民の環境への意識も非常に高い地域である。また、全国で活躍した近江商人の「三方よし」（売り手よし、買い手よし、世間よし）の精神や、障がい福祉政策の父とも呼ばれる糸賀一雄氏の「この子らを世の光に」という思想を育んできた土地でもある。

国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）は17の目標を設定し、地球を持続可能なかたちで将来の世代に引き継ぐために、経済と社会、環境の3つの要素の統合的な解決を求めている。「誰一人取り残さない」というSDGsの理念も含めて、本県の歴史風土

と合致し、さらに滋賀県民の行動と同じ未来を志向するものである。

こうしたことから、県の取り組みをSDGsの視点で見つめ直し、本県なりの持続可能な発展のあり方について検討していきたいと考えている。また、SDGsを物差しとして、滋賀が世界と同じ方向へ歩んでいることを確認しつつ、世界へ発信できれば、政策を通じた県のブランド化にもつながるものと期待している。

県の政策にSDGsの 視点を入れ込む

具体的には、まず県の最上位計画である基本構想に、SDGsの視点に基づいた県の進むべき方向性を示したいと思っている。

来年度で現行計画の計画期間が終了することから、今年度から次期基本構想に向けた議論をスタートしている。SDGsを1つのよ

りどころとしつつ、未来志向の視点と、県民の暮らしを取り巻く現実を直視する視点の両方から、滋賀の将来ビジョンを見定めることが重要である。滋賀の魅力を高め、すべての人が「今だけ」「自分だけ」「モノだけ」ではない豊かさや幸せを実感できる持続可能な共生社会の実現に向けて、検討を進めている。

さらに、2018年度の施策構築に向けては、SDGsの視点に基づき新たな施策展開や事業創出を目指している。多様なステークホルダーとのパートナーシップを重視し、SDGsの普及促進に取り組むとともに、滋賀の強みを活かしていくことで、持続可能な発展に向けた国内外のモデルとなる取り組みを生み出したい。

シンポジウム「サステナブル滋賀×SDGs」の開催

まずSDGsについて知ってもらうために



シンポジウム「サステナブル滋賀×SDGs」



トーマス・ガス氏による特別授業(大津市)

今年6月、大津市内において、滋賀経済団体連合会との共催により、シンポジウム「サステナブル滋賀×SDGs」を開催した。このシンポジウムでは一人ひとりの暮らしや企業等の経済活動のなかで、SDGsに取り組みることの意味について共通認識を持つとともに、滋賀県が率先して取り組む意義についても発信することができた。県民の皆さんの関心も高く、参加者の熱気を感じることができた。

シンポジウムで基調講演をいただいた国連の事務次長補トーマス・ガス氏には、シンポジウムに先立ち、大津市内の中学校で特別授業を行っていただいた。授業でガス氏は、暮らしのなかから世界を想像し、行動することの大切さを語りかけていた。中学生が熱心に質問する姿を見て、若者がSDGsの取り組みに参画していくことの重要性をあらためて

感じた。

学生の取り組み

県内の大学においても、学生が中心となった取り組みが始まっている。

10月には、立命館大学において、学生主催によるSDGs体験型イベント「サステナブルウィーク」が実施された。これはキャンパスを「小さな地球」と見立て、学生団体がさまざまな企画を通じて、SDGsについて主体的に取り組んだものである。

SDGsの目標年次である2030年は今から13年後。そのころに社会の中核を担う学生たちが、自らSDGsについて考え、実践しようという動きが始まっていることは、非常に重要である。

年内には、県と経済界の共催により、慶應

義塾大学と連携して県内大学の学生がキャンパスでSDGs推進に向け、自分たちに何ができるかを考えるワークショップとシンポジウムの開催を計画している。若者の具体的な行動につながるような取り組みを推進していきたい。

パートナーシップの拡大

本県のSDGsに向けた取り組みのキーワードは

「パートナーシップ」だと思っている。持続可能な滋賀の実現には、県民の皆さんをはじめ、企業、NPO、大学など多様な主体が分野を超えてSDGsでつながることで、パートナーシップを拡大していくことが重要である。

県内で生まれつつあるSDGsの達成に向けたさまざまな取り組みがさらに広がり、結び付き、連携できるよう、県としての役割を果たしていきたい。

SDGsは「未来との約束」

6月のシンポジウム「サステナブル滋賀×SDGs」では、SDGsに取り組むことは「未来との約束」だと宣言した。最後に、この「未来との約束」を紹介する。

未来との約束

滋賀で生きていく私たちは、自らが望む未来に向かって約束します。

すべての人が幸せに生きていく滋賀をつくりたい。

そのために、すべての人がサステナブルな滋賀を目指します。

滋賀で暮らす私たちは、世界が望む未来に向かって約束します。

世界の人たちが幸せに暮らせる世界をつくりたい。

そのために、世界の人たちと共にサステナブルな地球を目指します。